

ノヤマ通信

vol.47 (2026.文月)



森のようちえんヒュッテ

【6月の活動記録：4日宇和運動公園、11日わらマンモスの田んぼ、18日薬師谷溪谷、25日山の基地】

●活動を見つめるコラム

「こわい、と感ずること」

大雨が降った翌日、子どもたちと山の基地へ出かけました。普段ならサワガニを探したり、水に入ったりして遊ぶ川が、その日は茶色く濁り、ものすごい勢いで流れていました 😱。



川を見ていた一人の子が、ぼつりと「こわいよ」と言いました。いつもとは違う水の色や音から感じたのか、「近づいたらいけないよ」という大人の態度や表情から何かを感じ取ったのか、真意はわかりません。

森のようちえんヒュッテでは、ただ「自然が大好きな人」を育てたいわけではありません。自然を楽しみ遊び場としてだけ捉え、自分たちを楽しませてくれるものとして消費する人を育てたいわけでもありません。

自然は、美しく、おもしろく、私たちにたくさんの恵みを与えてくれます。一方で、人の思いどおりにはならず、ときに命を脅かすほどの力を見せます。川は楽しい遊び場にもなれば、近づいてはいけない場所にもなります。その両方を知ることが、自然とともに生きるためには必要なのだと思います 😊。

最近は自然体験の大切さが広く認識されるようになりました。その一方で、安全性や快適性、わかりやすい学びの成果などを求めるあまり、自然を人間の目的のための教材や道具として扱ってしまうようなこともあるように感じます。目の前の自然を人間の都合に合わせて切り取り、本来の自然の性質と向き合っていないというか…そういうのは「何か違う」と感じます。

「こわい」と感ずることは、自然を嫌うことではありません。自分よりも大きな存在を前にして、どう関わるべきかをよく考えることです。自然に親しみながらも、軽く見ない。近づきながらも、必要なときには距離をとる。そんな健全な畏れの感ずを、子どもと大人が一緒に育てていける場でありたいと思います。

(ゆ)



▲6/18森のようちえん@薬師谷溪谷 (宇和島)



山の基地

【6月の活動記録：20日…開放日、29日…やまびこDAY、13日、16日、22日…日常管理】

●6/16、草刈りに行ったとき、キウイ畑でアナグマと鹿に出会いました。アナグマは動きが遅いので写真を撮りましたが、鹿はサッと身をひるがえして山の上の方に逃げていきました。鹿については、今までに糞の確認はしていたものの、山の基地で実物に出会うのはこれが初めてです。四国のシカの分布域は年々広がっていて、植林した苗木や農作物を食べてしまうことが深刻な問題となっています。



●今年の梅雨は、雨が降る頻度が多かった印象です。開放日もすっきりしない天気でした。小屋で絵を描いたりして過ごす子もいましたが、小さい子たちはポツポツ降る雨を気にせず、いつものように生きもの探しを楽しむ姿も見られました。



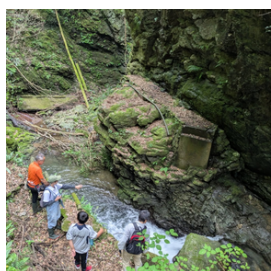
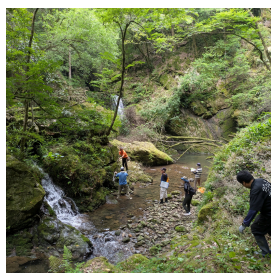
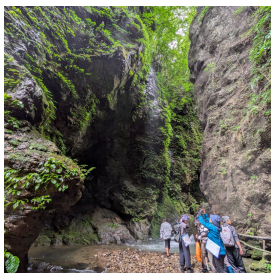
✿✿ その他の活動

●桂川渓谷の復興プロジェクトに参加（6/14）

のむら自治振（野村自治振興協議会）主催の桂川渓谷の探検ツアーに同行しました。平成30年7月豪雨の被災により立ち入り禁止となっているエリアの現状を確認し、渓谷の再生について考えるという企画でした。

森のようちえんの活動などで日頃からよく利用させてもらっている渓谷の再生に向けて、地元の皆さんが動き始めてくれたことを、とても心強く、ありがたく感じています。

かつての姿への復元を前提とするのではなく、今の時代に合った再生の形を、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています😊。



●鳥に関する短報が専門誌に掲載されました

昨年の冬、宇和で珍しい鳥を見かけまして。“ハクガン”という鳥で、日本野鳥の会愛媛の代表の松田さんに連絡したところ、愛媛県で観察されたのは初めて、ということがわかりました。そして、数日前に香川県でも同じ個体と思われるハクガンが確認されていたこともわかりました。

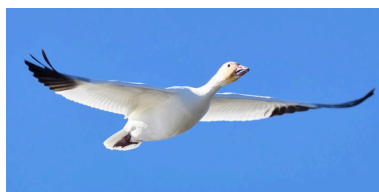
これらの観察記録をまとめた報告がこの度、日本野鳥の会の専門誌『Strix』に掲載されました。

（目次は右のQRコードから見ることができます。）



ハクガン▶

カモより少し大きい。
（出典：写真AC）



🌱 いきもの情報

活動の中で出会った生きものたちを紹介します。

●ヤマカガシ（青色型）

普通のヤマカガシはお腹に黄色や赤のまだら模様があるのが特徴ですが、そうした色素を持たない変異個体を林道で見かけました。

（6/17山の基地）



🐦 よもやま話

●森のようちえんに関する座談会をオンラインで視聴していたときの事です。「座り方をまねされたのが嫌だった」という理由で怒り、友達とケンカをした男の子のエピソードが紹介されていました。私はその話を、「そうそう。子どもって、大人からすると、とてもささいに思えるようなことでケンカになることがあるよね😅」と思いながら聞いていました。

すると、座談会の聞き手の方が、怒った男の子について、「彼なりの“尊厳”があったんだろうね」と表現しました。自分はこれまで、子どもの行動に「尊厳」という言葉を結びつけて考えたことがあまりなかったので、ハッとしました。

日々の生活の中で、子どもが何かに強く執着したり、こだわったりする場面があります。大人にはささいに思えるその行動の背景に、どのような思いや、その子なりの大切なものがあるのか。あらためて考えてみたいと思いました。（ゆ）

●小学3年生の次女は、漢字練習の宿題に時間がかかります。様子を見てみると、書いた字が気に入らなければ、消しゴムで何度も消して書き直しています。横から「なんで消すの？きれいに書けてるやん」と声をかけても、本人は納得しません。そして時間をかけて書き上げたノートには、たくさんの消し跡ときれいに整った字ばかりが並んでいます。私が子どものころは、「一つの漢字を5回ずつ書く」といった指示の宿題が多かったように思います。でも、漢字の練習にも、回数を重ねながら覚えるやり方もあれば、一文字一文字、納得がいくまで丁寧に書くやり方もあります。

何かを身につける方法やペースは、人それぞれなのだなあと実感しています。（ゆ）

<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com

